
『あなたの好きな人の、100年後のお誕生日会を企画する』

【企画意図】

超高齢化社会と聞くと、未来が明るくないと感じる。毎日の生活は、目の前の現実には精一杯で、未来を考えにくいような状況がある。高齢の知人と話していたとき、「もう先が短いから未来のことなど考えられない」と告げられたことがある。そのような中で先のことを考えることは難しいかもしれない。

しかし、いささか安直であることを承知の上で言えば、未来を考えることは前を向くことに直結し、想像力はその助けになるのではないだろうか。

そして、自分自身の未来は難しくても、誰か大切は人の未来であれば想像することができるのではないかという推測のもと、また、普遍的であり特別な「お誕生日会を計画する」という、個人でも集団でも共有できる題材にて、未来を想像し、はるか先の未来を予行演習することが本企画の趣旨である。

【なぜ、100年後なのか】

今生きているほとんど誰もが100年後には不在だろう。だから、100年後のお誕生日会という企画趣旨は、馬鹿馬鹿しいものかもしれない。だけど、いくつになっても祝いたい誰かの、未来永劫幸あれと思うその人の、子孫や友達や、束の間居合わせた人や笑い合った誰かの生活は100年後も続いているのではないだろうか。そういった想像を誘発するために、短くもなく、しかし長くもない100年後という設定を本企画では設けた。

【実施内容】

①65歳以上の方を対象にお誕生日会の主催者を公募する。

主催者の大切な人のお誕生日会のイメージを膨らませ、100年後の当日を予行演習として実施する。

→ドキュメント映像制作、展示公開を予定。

②大切な人の誕生日へのバースデーアクションやメッセージを広く収集し、アーカイブのWebサイトを公開する。それらはオンラインの海を漂流し続け、100年後にもしかしたら誰かが受け取るかもしれない、という考えのもと作成する。

【ドキュメントの構成案】

①発案者から協力者へのプレゼンテーション

②協力者からのフィードバック

③主催者の選定と紹介

④日々のコミュニケーションとお誕生日会に関する協議の様子

⑤他の協力者の紹介

⑥準備の様子

⑦100年後のお誕生日会の予行演習の様子

協力者とよくコミュニケーションをとり、対話を重ねながらプロジェクトを遂行することを目指す。